

大学院  
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部  
(男女共学)

幼稚部  
(認定こども園・男女共学)



提供：フォトライフ

## Contents

- 特集1 地域貢献 … 2~4
- 特集2 小学部の取り組み … 5
- 特集3 活躍する生徒たち … 6~7
- 特集4 学び続ける環境づくり(生涯学修事業) … 8
- 学園各部報告 … 9~10
- 相模女子大学の歴史 … 11
- 同窓会だより/ご寄付のお願い … 12



見つめる人になる。 見つける人になる。

 相模女子大学

特集1

地域貢献

9期連続  
地域貢献度ランキング  
全国女子大 No.1



日本経済新聞社による「大学の地域貢献度調査」が実施され、本学は、9期連続で全国女子大1位を獲得し、この調査結果は『日経グローバル』2023年11月6日発行NO・41「2023年12月4日発行NO・43」に掲載されました。

大学の地域貢献度調査とは、日本経済新聞社が全国76校の国公私立大学を対象に大学が地域社会にどのような貢献をしているのかを調査したもので、今回はITデジタル人材の育成や、留学生の地元就職率、文系・理系を超えた他大学との連携、SDGs対応などグローバル化に向けた取り組みなどの項目が評価されました。

さらに首都圏に本部を置く137大学を対象に（1都3県を除く43都道府県への貢献度の追加調査）が行われ「地方への就職・就業を促す取り組み」「大学の知を地方に供給する校中4位（女子大1位）にランクインしました。

今回の学園ニュースでは、地域貢献の取り組み事例を紹介します。

【連携教育推進課】  
椿プロジェクト

■椿プロジェクトのはじまり

東日本大震災の発生を機に、本学「子ども教育学科」の学生が相模原市の友好都市である岩手県大船渡市を訪問し、避難所（リアスホール、赤崎漁村センター）で炊き出しを行いました。その後2012年に学生有志による「被災地支援学生ボランティア委員会」を発足し、地域の方の心のケアを目的に、大船渡市の仮設住宅を訪問し住民と交流する取り組みが始まりました。この委員会の活動が、現在の「復興支援学生ボランティア委員会」として今もなお継続しています。

■椿プロジェクトについて

大船渡市の市花である椿を題材に、大船渡市内の保育園や幼稚園を訪問して「椿の学校」を実施（大船渡市椿プロジェクト支援）しています。また、学生が選ぶ大船渡市の特産品やスイーツ、アクセサリーなど椿関連グッズを、大船渡市や神奈川県内など双方で開催される各種イベントで販売や試飲などを行うと共に、ボランティア委員会の活動紹介なども行っています。2022年には大船渡市が開催する市制施行70周年記念式典にて、大船渡市の復興支援活動に取り組み、市の復興に多大な貢献をしたことを称えられ、同市長より感謝状が贈呈されました。今年度は、大船渡の菓匠「高瀬」とのコラボレーションにより、相模原市の津久井在来大豆のきな粉を使ったコラボスイーツを開発し、相生祭や相模原農業まつりにて販売するとともに、相模原市社会福祉協議会への贈呈も行いました。加えて、本学園の幼稚部にて、大船渡市の市花「椿」を題材にした紙芝居を園児に読み聞かせする等、学園内での新たな交流機会の創出にも挑戦しました。同委員会では実施した活動や市の魅力を伝えるために、学生が動画を作成してYouTube&Instagramで定期的に配信したり、ラジオ出演等を通じて学園祭での取組みを披露するなど、情報発信にも力を入れ、地域の活性化に貢献しています。



大船渡市市制施行70周年記念式典



大船渡の菓匠「高瀬」とのコラボスイーツ



「復興支援学生ボランティア委員会」メンバー

【連携教育推進課】  
外国につながる生徒の学習支援・  
教育相談プログラム CEMLA

# CEMLA とは、 Center for Multicultural Learning & Activities

の頭文字で、「多文化学習活動センター」の意味です。  
CEMLA 運営協議会が協働で運営している「多文化  
共生の学習支援拠点」です。

CEMLA スクールは外国につながるの中学生や高校生など若者が日本語や教科の勉強をする場です。本学と県立高校9校、そして認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわが協働で運営し、学習支援教室・教育相談・情報提供を3つの柱として活動しています。

CEMLA スクールは、日本語教師、高校教員をはじめ日本語支援に携わる方、社会人、他大学生、そして日本語日本文学科の学生を中心に多くの学生がボランティアとして参加しています。ボランティア学生は、授業の一環として自分たちで教材を用意し、どんな流れで日本語を教えていくか試行錯誤しながら毎週交代で参加しています。日本語や教科を教えることは必ずしも容易な事ではありませんが、様々な背景を持つ学習者の声に耳を傾け、寄り添いながら一緒に学び合っています。やさしく、丁寧に教えてくれるボランティア学生に学習者は安心して楽しく勉強をすることができているようです。



▲CEMLA について  
詳しくはこちらから



【食物栄養学科】  
びよにわ子ども食堂  
活動報告

びよにわ子ども食堂は、約6年間取り組んでいる地域貢献活動です。授業のある期間に月1回、相模大野駅に近い「ユニコムプラザさがみはら」で、子どもだけでなく誰でも来てもらえる食堂を、食物栄養学科のゼミナール活動として運営しています。学生が栄養バランスや季節感を考えてメニューをつくり、地域のボランティア団体「であいの和」のみなさんと一緒に調理しています。JA相模原市様から相模原市産の旬の野菜を配送支援いただき、食育として地産地消の食材を提供しています。

「びよにわ」とは、ヒヨコ（子どもたち）のびよびよと、ニワトリ（おとなたち）が家の庭で楽しく集うことをイメージし、学生たちが名付けました。学生たちは参加者の方々に食事の感想を聞いたり、子どもたちに食育クイズを出したりと積極的にコミュニケーションをはかり、地域のみなさんが夕食のひとつを一緒に楽しく過ごせるステキな食堂をめざしています。



●5月18日(木)  
第1回テーマ「野菜たっぷり子どもが喜ぶメニュー!」



メニュー:「ロールパン」「あいのクリームシチュー」  
「やさあいコロコロクック」「ちゆるちゆるぶどうゼリー」

●6月15日(木)  
第2回テーマ「郷土料理を知ろう!」



メニュー:「五穀米」「鮭のちゃんちゃん焼き」  
「けんちん汁」「サーターアンダギー」

●7月6日(木)  
第3回テーマ「旬の野菜を食べYO☆!」



メニュー:「夏やあさいたっぷりアツカレー」  
「ほてさらちゃん(ポテトサラダ)」  
「Moomooゼリー(牛乳ゼリー)」

●10月27日(金)  
第4回テーマ「ドキドキハロウィン!」



メニュー:「ケチャップライス」「ソソビのオムレツ〜ピーマン  
チューを添えて〜」「お化けのコールスロー」「ミイラパイ」

●11月24日(金)  
第5回テーマ「栄養たっぷり!秋メニュー」



メニュー:「青のりごはん」「豚汁」「鮭のムニエル」  
「ほうれん草としめじのお浸し」「スイートポテト」

●12月22日(金)  
第6回テーマ「手巻きパーティー」



メニュー:「手巻きずし」「貝だくさん味噌汁」「クリスマスロールケーキ」

「子ども食堂に来ると、子どもが野菜を食べてくれるんですよ、お母さん方がはたらくさん声をいただき、とてもやりがいを感じました。献立は旬の食材を多く取り入れ、子どもでも食べやすいように工夫しました。毎回の準備は大変でしたが、参加者が楽しんでる姿を見て、ゼミナール活動をやってよかったと思えました。子どもの食育など多くのことを学べました。今後の栄養士活動に活かしていこうと思います。」

## 【人間社会学部】 認知症カフェ

相模原市民の皆さんと本学の社会福祉士課程の学生と教員が開催している認知症カフェ「認知症カフェさがつばとtea time」も今年で5年目を迎えました。途中、新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインに切り替えましたが、2023年度はすべて対面で実施することができました。「認知症カフェさがつばとtea time」は認知症について様々な立場の人が一緒に学び、つながりをつくる場です。毎回コーヒーやお茶を飲みながら、参加者同士の交流を楽しむカフェタイムと、認知症に関する学びを深める講話タイム2本だけのプログラムになっています。2023年度の講話タイムでは認知症の方の治療に従事されている精神科の先生や、地域で認知症の方やそのご家族に対する様々な支援を行っている社会福祉施設や社会福祉協議会のスタッフの方にも参加していただき、認知症について学びを深めることができました。2022年の相生祭では若年性認知症当事者の下坂厚さんの写真展も企画し、多くの方にご来場いただきました。

「認知症カフェさがつばとtea time」は本学の関係者だけでなく、認知症に関心のある方ならだれでも参加できます。毎月第4土曜日 14時～15時30分 Tea Lounge 2002 で開催しています（1月と8月はお休みです）。

詳しくは左記のメールアドレスまでお気軽にご連絡ください。

k-matsuzaki@isc.sagamii-wu.ac.jp

## 【人間心理学科】 サンタプロジェクト

自宅でクリスマスを通い送れない子どもたちに本を贈るプロジェクトで、2009年に新潟県新発田市で始まり、全国で行われています。本学学生によるサンタプロジェクト・さがみはらは、2012年度から始まりました。協力書店さんで市民の方々が贈り先の子どもたちひとりひとりに宛てた本を選んで購入し、クリスマスカードにメッセージを書いて下さいます。今年度は乳児院・児童養護施設と、病院の小児科病棟で過ごす子どもたちにお届けしました。学生達は、クリスマスカードやプレゼントとして下さった皆さんにお渡しする「サント認定証」の作製、本のお届けなどの役割を担っています。お子さんひとりひとりに本を手渡しすると、照れくさそうな様子や笑顔など色々な表情を見せながら、嬉しそうに受け取ってくれました。学生に「読んで」とせがむ子もいて、子どもたちとのしばしのふれあいに、学生たちも心温かくなったクリスマスでした。ご協力下さった沢山の方々に感謝申し上げます。



病院には郵送でお届けしました

## 【就職支援課】 地方就職のサポート

本学では、地方出身の学生が多く学んでいます。また、本学を卒業した多くの先輩たちが、全国各地で活躍しています。

就職支援課では、地方就職を希望する学生とその保証人に向けて、オンラインで地区懇談会を実施しています。地区懇談会では、厚生労働省の地方人材還流促進事業「LO活プロジェクト」の協力のもと、「UIJターン」※の現状や就職活動事例の紹介、実際に地方就職が決まった学生による就職活動報告会を実施するなど、地方就職について理解を深めてもらえるよう取り組んでいます。懇談会後には、個別相談会を設け、個々に合わせた支援を行っています。

また、地区懇談会他に、学内に特設ブースを設け、地方就職を希望する学生を対象に個別相談を実施しています。地方の企業の紹介をはじめ、就職活動のポイントや注意点、面接対策のアドバイスなどを行っています。



地方就職希望者の個別相談の様子

本学では、地域との交流を大切にし、地方就職希望の学生に様々なサポートをしています。積極的にご利用ください。

※「UIJターン」：Uターン・Iターン・Jターンの総称で、大都市圏から地方への移住を指す。

Uターン…地方出身者が都心の大学に進学し、卒業後出身地に戻って働くこと。

Iターン…都心出身者が卒業後、出身地以外の地方で働くこと。

Jターン…地方出身者が、都心の大学に進学し、卒業後出身地以外の地方で働くこと。

## 【生涯学修支援課】 インクルーシブな生涯学習

※「インクルーシブ」とは「全てを含む」という言葉で、さまざまな特性を持つ人たちが共に過ごすことを意味しています。

本学は、令和3年度より相模原市からの委託を受けて、発達障害や知的障害のある若者と学生や市民が共に学ぶインクルーシブな生涯学習プログラムの開発（インクルーシブ・プログラム開発事業）を相模原市発達障害支援センターと協働で行っています。

令和5年度は、他大学でも汎用可能なモデル開発として広く受講者を募る「生涯学習プログラム（講座）」と、学生や障害のある若者が講座の運営に参画して、受講生をサポートしながら講座のニーズ調査等を行う「エンパワメント・プログラム」の2本柱で進めています。

この事業では、多様な人々たちへの学びの場を開放するだけでなく、知的・発達障害の青年と学生がフラットな関係性を通じた相互交流が行われていて、学生にとっても得るものが多い取り組みになっています。「この活動は、私の財産!」と参加者からの声もありました。本学では、今後も多様な人々たちへの学びの場づくりを推進します。



「ともに学び、ともに生きる」さがみはらリーフレット



メディアチームが撮影する私の趣味自慢タイム



カフェテリアでの講義の様子

特集2

# 小学部の取り組み

## 社会科学見学特集

11月の第3週目は小学部では社会科学見学週間です。学校でそれまで学習してきたことを実際に目で見て確かめ、さらに深める学びとなる社会科学見学を子どもたちは楽しみにしています。ここでは3つの学年の見学をご紹介します。

1年生は、2学期になって総合の時間に学園内のビオトープや農園に虫取りにでかけ、実際に虫を飼う中で昆虫についての学習を進めてきました。そんな1年生の見学先は、多摩動物公園の昆虫園です。ナナフシ、オオカマキリ、コオロギ、森のオオゴキブリ、トノサマバッタ、カブトムシの幼虫という6種類の昆虫に対して、それぞれに適した触れ方を学ぶことがテーマです。「背中や頭の上など、自分の見えない所まで虫が行ったら、絶対に自分で取ろうとしてはいけない。そういう時は、近くのお友だちに助けをもらう。」というルールを守りながら、触れ合いに前向きにぞむ1年生の子どもたち。始めは「ええ〜怖い!」と言っていた子の中にも、「触れた!」と喜びが次々に出てきました。虫が苦手という人は大人でも多いですが、このような経験を通して、命ある生き



昆虫とふれあう1年生

物に対する思いやりや責任感をもつ気持ちや大事してほしいと願っています。

3年生は、社会のごみの学習として、「リサイクルスタジアム」「南清掃工場」を見学しました。リサイクルスクエアは、相模原市が推進している4R活動に関する理解を深めるための施設です。資源として排出されたものが、どのように再利用されているのか、実際に見て触って学ぶことができました。清掃工場の見学の中で、巨大ゴミクレーンやゴミ収集車の発着場は迫力があり、多くの歓声が上がりました。最終処分場はこのままでは15〜16年でいっぱいになってしまうという課題も教えてもらいました。『混ぜればゴミ、分ければ資源』です。今ある処分場を長く使うためにも、一人ひとりの心がけが大切になります。この見学は、子どもたちにとって環境問題への意識を高める貴重な機会となりました。

4年生は社会科学の学習「私たちのくらしと水」を通して、きれいな水をたくさん利用できているのは『森のおかげ』であることを学びました。さらに「森林を守る人たちの仕事」をテーマに学習し、森を守る人たちが仕事をしてくださっていることで、水源の森が守られ、美しい水ができ、さらに災害を防ぎ、生活に欠かせない木材を得ることができるということを学んできました。今回は、実際に『森』を見て学習を深めるために、「高尾ふれあい森林推進センター」に出かけ、裏高尾の森を散策することを通して、森の豊かさを体験してきました。森を散策しながら、関東森林管理局の方から植物や動物、昆虫などの話を聞きました。水源の森としての裏高尾です。実際に崖からしみ出した水がポタポタと垂れ、小さな流れとなり、沢に注いでいるところを見ることができ、「くらしと水」について学習したことを確認することができました。地球温暖化を防ぐためには森が欠かせないことや、森を守っていくことの大切さと森を整備する仕事とは、どのような仕事であるのかを学びました。



クレーンで運ばれるゴミを見て歓声をあげる3年生

その他、2年生は総合で学んでいる動物飼育の発展として、金沢動物園を見学し、動物たちの生態や獣医さんのお仕事について、5年生は日産の方をお招きして、「日産わくわくエコスクール」を行い、クルマ社会の課題である「地球温暖化」と「交通事故」の解決策について、6年生は「横浜はじめて物語」と題して明治時代に海外から入ってきた横浜発祥のものにまつわる地を歩き、文明開化について学びを深めました。本物を実際に見て、触れる、志をもってお仕事をしている方の話を聞くことができる社会科学見学は、小学部の大事な学びになっています。

(小勝)



森林の大切さについて学ぶ4年生

# 特集3

# 活躍する生徒たち

【中学部】

10人で「歴史を塗り替え」て

東関東大会へ！



10人で初の東関東出場を達成

中学部吹奏楽部は、夏のコンクールで創部以来初の東関東大会出場を果たし、銀賞を受賞しました。

これまでは県大会銀賞（2022年度）が最高位でしたので、「歴史を塗り替えたい」と大喜びしました。演奏したのは「繚乱〜能『桜川』の物語によるラプソディ」という曲で、「和」の響きを大切に演奏しました。東関東大会出場団体の中では、最少の10人で挑んだ私たちが、人数が少ない分、他の人に隠れることはできないため、自分の音に責任をもって演奏に臨んだことが、結果につながったと思います。

（中学部吹奏楽部

部長 日原碧美）



【中学部】

みんなで掴んだ全国準優勝！

京王J.T.ウインターカップ2023-24は、2024年1月4日〜8日の日程で行われました。3年連続の出場です。今年のチームは夏に行われた全国中学校大会では決勝トーナメント1回戦で折尾中学校（福岡）に24点差で敗れベスト16という結果でした。この結果を選手たちと振り返り、練習を積み重ねてこの大会に臨みました。選手たちは一回戦から素晴らしいパフォーマンスを発揮して勝ち上がり、準決勝では夏に破れた折尾中学を延長戦の末73-72と逆転勝利をして全中のリベンジを果たし、決勝戦へ進み、留学生が2名いる京都精華学園中学との決勝へ進みました。結果は61-82で敗戦。準優勝となりました。敗れはしましたが1回戦から6試合を笑顔で戦い抜いた選手たちの戦いぶりに観客からも大きな声援をいただきました。この準優勝はメンバーの15名だけではなく、部員全員で勝ち取ったものだと思います。私は選手たちの成長に感動と感謝の

長に感動と感謝の



準優勝の表彰

【高等部】

個人競技での仲間のつながり

今年8月、北海道で行われたインターハイで4×100mフリーリレー・4×200mフリーリレーに出場を果たしました。普段、別々で練習を行っている部員たちがこの日のために心

気持でいっぱいになりました。日本一へのあと一勝は後輩たちがチャレンジしていきます。

（中学部

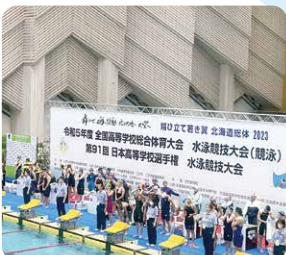
バスケットボール部顧問 田島稔）



表彰後メンバー全員で記念写真



エース竹内選手の3ptシュート



仲間と掴んだインターハイ出場

を一つにして臨みました。北相地区大会では圧倒的な得点差をつけて優勝し、8連覇しました。個人個人でベストを更新し、これが8連覇という結果につながりました。コロナの規制が緩和され、応援が可能になった会場ではそれぞれの学校の応援コールが聞こえてくるようになりました。応援のおかげでより一層、部活の絆が強くなった気がします。仲間の大切さを実感した年になりました。

〔高等部水泳部 齋藤慧〕

## 〔高等部〕 インラインスケートで世界に挑む

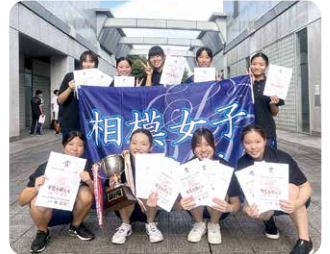
私はインラインスケートという、靴底に車輪が縦1列に並んだスケート靴を履いて技やスピードなどを競う競技をしています。2023年度の全日本選手権では3種目優勝を果たし、日本代表に選出されました。10月に中国で行われたアジア選手権では6位入賞を収め、11月に同じく中国で行われた世界選手権では入賞をするこ



2023 アジア選手権スピードスラローム



北相地区大会8連覇!



部員の声援を胸に



水戸市民会館で熱演したメンバー



コンクールを牽引した高校3年生

高等部吹奏楽部は、初めてA部門でコンクールに臨みました。A部門では、課題曲と自由曲を演奏しなければなりません。しかも、相模原大会からして激戦です。これまでの伝統(東日本大会金賞3回など)を乗り越えていくプレッシャーもあり

## 〔高等部〕 初めてA部門で挑んだ 東関東大会



2023 アジア選手権パトスラローム



2023 アジア選手権クラシックスラローム

とは出来なかったものの、堂々と自分の実力を発揮することが出来ました。また、海外選手達と沢山交流をすることが出来てとても良い経験になりました。これからより一層努力をして、世界の上位選手と戦うことが出来る選手になりたいと思います。

〔高等部スキー部 青木詩乃〕

ました。それでも、部訓「花」を胸に、「必ず自分たちらしい「花」を咲かせるんだ」という意志をもって臨みました。夏休み最終盤には、改めて高3で東関東への決意を確かめました。A部門初挑戦での「銀賞」は、十分に手ごたえのある結果でした。後悔はありません。応援してくださったみなさん、本当にありがとうございました。

〔高等部吹奏楽部部长 高橋瑛実利〕

## 〔高等部〕 目標を掲げる大切さ

10月に行われた関東大会で1位を受賞しました。本番は満足のいく演技とはならなかったものの、創部以来初の関東大会で1位をいただき、目標を達成することができました。早い段階から目標を決め、目標を見える所に貼って、目標達成に向けて日々練習に励んでいました。一人一人のモチベーションが高く、休憩中も個人で練習する姿が多く見られたのも目標達成に繋がったのだと思います。

大会ごとに目標を立てて、みんなで共有したうえで大会に臨んだ結果、私たちは今年度、関東大会1位を含め2つの歴代最高位をいただく事ができました。全ての大会で目標を達成することはできませんでしたが、目標を掲げて練習をする大切さを学んだ1年になりました。この経験を生かして、大学でも目標に向かってバトンを頑張っていきます。

〔高等部バントワーリング部 榎本夢乃〕



関東大会では千葉県知事賞を受賞



ジャパンカップでノードロップ



全国大会では3年連続の金賞

# 特集4

# 学び続ける環境づくり (生涯学修事業)

## 社会のニーズに応じた多様な 生涯学修を展開しています。

相模女子大学における生涯学修事業は、1965年に全国で初めて行政(相模原市)と共同で開催した「市民大学」をはじめ、本学独自で開催する教養講座「さがみアカデミー」、正規科目を学生と一緒に受講することができる「さがみ学びのパスポート」等、開かれた学園として地域の方が学ぶことができ、各種講座を展開してきました。また、近年は社会人の学び直しやリスクリンクといった社会のニーズに応えるべく、「多様な生涯学修のあり方」の検討を進め、就業する女性を対象としたリーダーシップ育成講座や、障害者と共に学ぶことのできるインクルーシブな生涯学習講座を積極的に実施する等、多様な人たちが学ぶことのできる新たな講座づくりに取り組んでいきます。ここでは、これらの本学における生涯学修講座の取り組みの一部を紹介いたします。



未来志向の女性に向けたリーダーシップ育成講座風景

## 未来志向の女性に向けた リーダーシップ育成講座

近年、職場でリーダーシップを求められる女性は増加傾向にあり、ますます自分自身を磨くことが求められています。その一方、女性は出産・育児などによりライフスタイルの変化が激しいことや、周囲にロールモデルや仲間が少ないことから、将来のキャリアがイメージできず、リーダーシップのあり方に不安を感じているとの声が聞かれます。

本学では創立以来120年以上にわたり、学びを通して女性の自立を支援してきました。その経験を踏まえ、今日の組織にふさわしい柔らかなリーダーシップ養成を目指した講座として「未来志向の女性に向けたリーダーシップ育成講座」を開催しています。

①自分軸に基づいたキャリアプランニング、②リーダーシップを発揮するためのコミュニケーションスキル、③仕事をスムーズに進めるための実践スキルと知識、④仕事と人生に新たな発想をもたらすデザイン思考といった四つのエリアでの学びを通して、自分自身の魅力を再発見し、自分らしいリーダーシップスキルを身につける講座です。今年度は、卒業生をはじめ11名(エリア受講者も含む)の方が受講されました。

## さがみアカデミー

本学独自の教養講座「さがみアカデミー」では、春季と秋季の年2回、知的財産を広く社会へ還元することを目的に、本学の伝統と特色を生かした様々な講座をご用意しています。2023年度は「グローバルな問題・英語でディスカッションできるようになろう」「風土記を読む」「アートセラピー入門」「インドの食卓に学ぶスパイスの知恵」など、多岐にわたる分野の講座を開講しました。

教室には、相模原市の登録文化財となっている茜館(旧第一本部棟)を使用しており、本学の歴史を体感いただけます。(必要機材に応じて、学内の教室となる場合があります。)2024年度春季さがみアカデミーは、4月1日受付開始予定、年齢や性別の制限なく、どなたでもご受講いただくことが可能です。



さがみアカデミーパンフレット



## 社会起業フォーラム

ビジネス分野に関心のある方に向けて、専門職大学院「社会起業研究科」が主催する講座「社会起業フォーラム」を開催しています。2019年からスタートし、今年度で5回目を迎えました。ビジネスを通じた社会的課題の解決を軸としたテーマを設け、多彩なゲスト講師と実務経験豊富な大学院の専任教員のコラボレーションによる講座を用意しています。土曜日や平日の夜に開催、対面とオンラインのハイブリッド形式となりますので、「忙しくてなかなか時間がとれない」という方も、ぜひ一度ご検討ください。

## 県立総合教育センターとの連携 研修講座

高等学校と連携し教育の質の向上を目指す「高大連携」の取り組みとして、神奈川県立総合教育センターと共催講座を開催しています。主に中学校・高等学校教員を対象としており、教育にご興味のある一般の方もご参加いただけます。対面とオンラインのハイブリッドでの開催となります。(生涯学修支援課)



さがみアカデミー講座風景



# 学園各部 報告

学園

## 「赤い羽根共同募金」運動功労者(団体)として表彰されました

11月7日(火)、第70回神奈川県社会福祉大会が行われました。この大会は、永年にわたり本県の社会福祉の発展に貢献し、功績のあった方々を称えるとともに、その活動と経験を継承し、「ともに生きる社会」づくりの一層の推進を図るために開催されています。

本学は「赤い羽根共同募金」運動功労者(団体)として表彰されました。

今後この活動を継続し、神奈川県社会福祉に役立てたいと考えています。

(総務課)



第70回神奈川県社会福祉大会



表彰状

## 大学院・大学・短期大学部

### キャリア教育講演会を実施しました

日本語日本文学科では、1年生を対象としたキャリア教育講演会「キャリアの作り方」先輩たちの就職体験談」を実施しました。この講演会は、将来の仕事や働き方といった自分自身のキャリアについて考えるきっかけとすることを目的としています。

講演会では、「低学年からのキャリア設計」「先輩たちの就職体験談」「地域連携活動」等についてお話がありました。就職体験談では、本学の職員の数名から、学生時代のことや自身のキャリアについての話しがあり、地域連携活動では、連携教育推進課より本学の社会貢献活動やプロジェクト活動についての説明がありました。

日本語日本文学科では、日々の授業を大切にするのと共に、学生自身のキャリアについても、低学年からサポートをしています。



講演会の様子

### 日本語日本文学科 日本学国際研究所開設準備講演会を開催しました

12月9日(土)に、相模女子大学日本学国際研究所開設準備講演会を開催しました。

講演会は、本学会場での対面とオンライン配信のハイブリッド形式で実施され、会場・オンライン合わせて約130名の方々にご参加いただきました。

## 山田純日本語日本文学科教授が司会を務めるなか、田畑雅英学長による挨拶で講演会が始まり、2024年4月に開設が予定されている「相模女子大学日本学国際研究所」のコンセプトを踏まえた、ピーター・J・マクミラン客員教授による講演「Anatomy of Japanese New Era」を行いました。続いて、中林正身研究所開設準備室長より、相模女子大学日本学国際研究所の概要についての説明がありました。



講演会の様子

参加者は熱心に耳を傾け、講演後の質疑応答では、講演内容や本研究所に関する質問がなされ、「今後の日本学国際研究所に期待する」等のご意見・ご感想を頂戴しました。

今回の講演会は、本学学生や学内関係者だけでなく、一般の方々にも多数ご参加いただき、来年4月に開設予定の日本学国際研究所の次なる展開に向けた大きな一歩となりました。

今後も「日本」の多様な側面を研究すると共に研究活動を促進し、国際社会に向けて「日本学」の価値と魅力を発信していきたいと思えます。(学術研究支援課)

### 生涯学修特別講座を開催しました

今年4月に開設を予定している「相模女子大学日本学国際研究所」の事前講座として、日本学国際研究所開設準備室と松竹株式会社で共同で企画した特別講座『新作物舞伎を創る喜び、体感する楽しみ』歌舞伎俳優・片岡亀蔵さんに聞

く」を開催しました。

2023年12月23日(土)、宮藤官九郎作・演出のシネマ歌舞伎「唐茄子屋 不思議国之若旦那」で番頭小辰と吉原たんぼの蛙ゲゲコを演じている片岡亀蔵氏に、新作物舞伎の舞台裏エピソードや歌舞伎のもつ高いエンターテインメント性について語っていただきました。さらに海外公演の思い出を振り返り「海外での歌舞伎に対するリアルな反応」などについても紹介されました。

当日は、参加者約180名の方々全員が「松島屋!」という声がかけてご入場いただくなど、歌舞伎ファンにとどまらず、本学の学生にとっても歌舞伎に触れる良い機会となりました。(生涯学修支援課)



特別講座 片岡亀蔵氏(右) 山田純先生(左)

### 「ディスカッション練習講座」「筆記試験対策講座」等が開催されました

大学3年生および短期大学部1年生を対象に、就職活動が本格化する3月に向け、学科担当職員との面談に加え、就職に関する様々な講座を実施しています。学生個人では対策が難しい「ディスカッション練習講座」や「グループ面接練習講座」をはじめ、「筆記試験対策講座」や「メイク講座」を開催しま

した。また、2月に対面で実施した「企業研究会」では、多くの企業にご参加いただき、学生は企業の方々のお話を直接聞くことができる貴重な機会となりました。大学4年生および短期大学部2年生について、就職活動を続ける学生のサポートを引き続き行つてまいります。  
(就職支援課)

中学部・高等部

中学部 沖縄たのシーサー

私は修学旅行を通して沖縄の海への感じ方が変わりました。最初は修学旅行に遊び感覚で行っていましたが、いざ平和資料館に入り沖縄戦について学ぶと、自分が今いる所に本当に戦争があったのだなと思えました。そして、その学びを得た後に見る海は、綺麗なとは裏腹にたくさんの残酷な戦いが積み重なっているのだと考えると、純粹な気持ちで沖縄の海を見ることができないと思えました。今回の修学旅行



沖縄平和祈念資料館



水牛体験



ビーチ散策

は、学びと絆が深まったものになったと思えます。また沖縄に行く機会があったら、今回のものと重ね、素敵な思い出を振り返りながら旅をしたいです。

(中学部3年 久保田陽愛)



エイサー鑑賞

アカデミックコース 探究成果発表会「A1グループ」初代王者が決定

アカデミックコースでは各自の関心あるテーマで探究活動を行い、その集大成としてポスター発表を行いました。私の探究テーマは「海外で受け入れられない日本食があるのはなぜ?」です。納豆を代表例に食文化や食嗜好の形成について調べた結果、その形成には長い歴史と気候風土が関係することが分かりました。海外の人にはその食品を食べてきた歴史がないため、抵抗感があるのだと考えられます。また、日本人が納豆などの「ネバネバ食品」に抵抗感を抱かないのは、主食であり栄養源の米に粘性があるためだと考えました。

アカデミックコース2年 眞分香凛



王者の証、アカデミックガウンを贈呈



大学の先生方や保護者も参観しました

小学部

感謝の気持ちをもつて過ごした5年生のスキー学校

1月8日〜10日の2泊3日の日程で、北八ヶ岳山麓、標高1400mにあるスキー場「シャトレーゼスキーバレー小海」で5年生のスキー学校が行われました。今年度のスキー学校から、より子どもの安全と技術向上を考え、基本的に各スキーチームを現地のインストラクターが指導し、小学部教員がサポーターとして入るようにしました。初心者チームは板、ストック、ブーツといった用具の扱いから学び、2日目にはリフトに乗り、落ち着いて板をハの字に開き、しっかりとスピードをコントロールして斜面を滑り降りることができるようになりました。経験者チームは、スキー場の中で一番高いところまでリフトで上がり、滑って降りてくることができました。不安な気持ちを乗り越え、意欲的に練習に臨み、確実に上達していることが子どもたちの大きな自信となり、雪山の美しさを感じながらスキーを楽しんでいました。

元日から心を痛める出来事が続く中で、ホテルのスタッフや現地のスキー指導員の方たちのお陰で安全に、また予定通りにスキー学校を実施できたことに感謝をしながら過ごし、スキーの練習でもホテルでの生活でも5年生の成長を感じることができた充実した3日間となりました。(小勝)



きれいなトレーンを作って滑ります

認定こども園 幼稚部 子どもたちと植えたさつまいもを使って食育活動を行いました

年中組では、1学期に子どもたちと一緒に裏庭の畑に植えたさつまいもを11月に収穫しました。それをきつかけに子どもたちの食への興味が広がり、各クラスで調理方法を子どもたちと相談し、スイートポテト・焼き芋・さつまいもご飯作りをそれぞれのクラスで楽しみました。

スイートポテト作りを行ったクラスでは、さつまいもを洗うところから始まり、さつまいもを潰したり丸めたりするところを子どもたちと一緒に行いました。段々とさつまいもの良い匂いが広がっていくと、子どもたちも「甘い匂いがする!」「中は黄色っぽいね」など感じたことを話しながら楽しく調理する姿が見られました。スイートポテトが出来上がると「バター味ですごく美味しい!」「柔らかくて美味しい」とたくさんの笑顔が溢れていました。職員室にいる先生やさつまいもの苗を用意してくれた先生にも、感謝の気持ちを込めて、作ったスイートポテトを配りました。「すごく美味しいね」と言われるととても嬉しそうにしながら作り方を説明したり、使った材料を話したりしていました。その後の自由遊びの時間には、スイートポテトのレシピ本を作り、ごっこ遊びに取り入れて遊ぶ姿が見られました。今後も食に関する興味をより深められるよう、子どもたちの遊びや会話の中につぶやきを大切に拾っていきたいと思います。(畠山)



潰したさつまいもを好きな形にしました



## 二代目校長 平山成信 (1854~1929年)

1911(明治44)年、創立者の西澤之助は経営難に陥った帝国女子専門学校と附属日本高等女学校の校長を辞職し、平山成信が二代目の校長に就任しました。

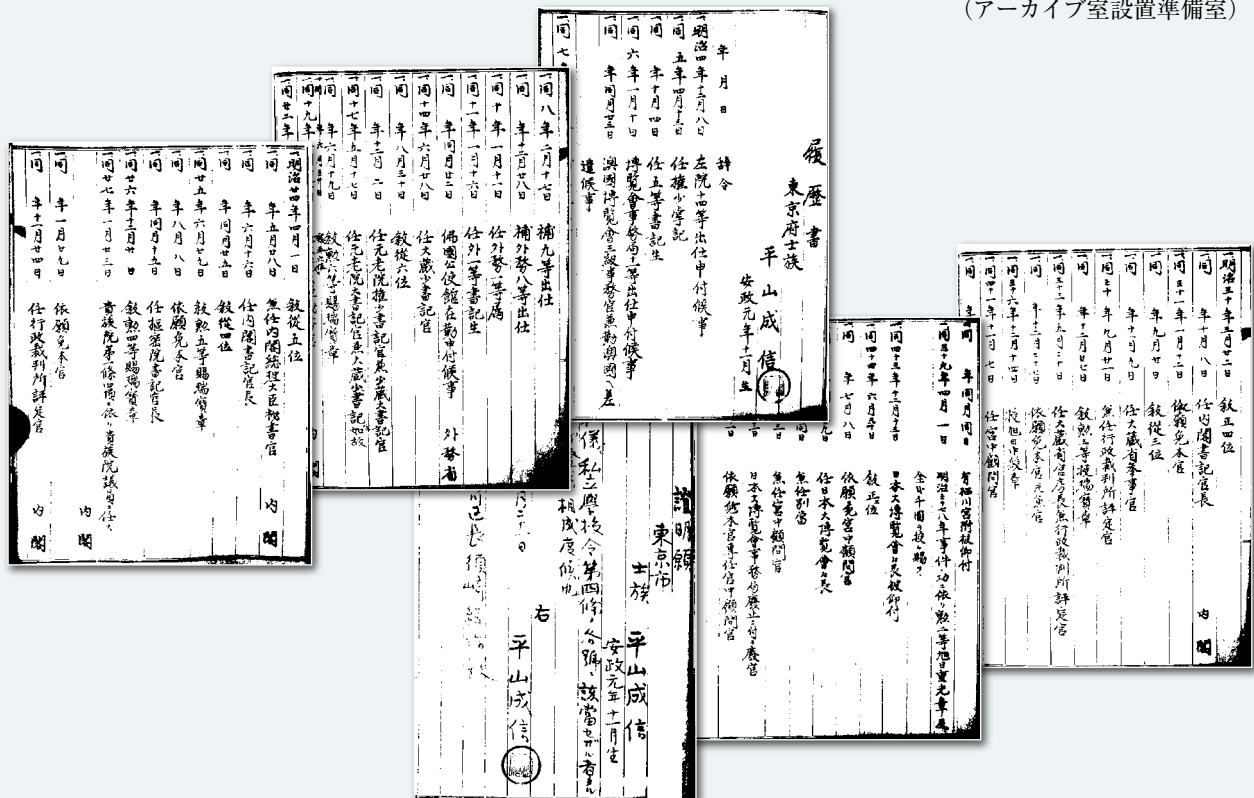
1914(大正3)年に平山成信が東京市小石川区長に宛てた履歴書によると、1873(明治6)年に博覧会事務局吏としてオーストリアのウィーンに派遣され、その後2年間欧州に駐在しました。ウィーン万国博覧会の総裁は大隈重信、副総裁は佐野常民(のちの日本赤十字社となる博愛社の創立者)で、後年になって平山成信が書いた回顧録『昨夢録』には、この二人の写真も掲載されています。また、外務省や大蔵省などの勤務を経て、今の内閣官房長官に当たる内閣書記官長を二度も勤めました。

この履歴書にはありませんが、のちの法政大学となる和仏法律学校の理事や監事を勤め、日本赤十字社の副社長(1917~1920年)、五代目社長(1920~1929年)を歴任。また、日本初の学術団体「啓明会」(1918年設立)理事長や私財を投じて貧困で学校へ行けない児童のための私立学校(慈善学校)「素山学校」を1903(明治36)年1月、東京都文京区小石川の地に設立・開校し、その運営に当たるなどの功績もあります。

その人柄は温厚で、教育事業に深い理解と国際的な視野をもった人であったため「学校再興のためには適任者であった」と、当時の学校関係者が喜んだとの記録が残っています。

平山成信は無給で校長職を勤め、私財を注いで学校を再建しました。

(アーカイブ室設置準備室)



参考文献：『相模女子大学六十年史』『相模女子大学八十年史』『校舎は焼けても、学校は焼けない-相模女子大学の110年-』



## 「相模教育」が創った思い出と、 未来を生きる自信 崎山みゆき（昭和58年 短期大学部国文科卒業）



アウトドア同好会 釣り大会

「相模女子大学短期大学部です…。」

卒業直後の私は、この言葉に自信も誇りも持つことができず、うつむき加減で口にしていました。当時はバブルに向かい日本中が浮かれていた時期。女子短大生の評価基準は、服装の華やかさ、合同コンパへのお誘いの数、ライトな勉強ぶりなどであり、相女カラーとはかけ離れていました。

ここで、当時の短期大学部国文科教育についてお話しさせていただきます。大学のようなゼミ論必須、演劇論では戯曲の創作、近代文学は新派観劇の感想文…。他校とはかなり違いました。「相女の国文科は、我が国において屈指の歴史を持つ」と言われている意味が解りました。在学中の思い出は、図書館に缶詰めになり、空き時間も惜しみレポートを書いていたことばかりです。友達との挨拶は「書けた?」「まだ」。当時は、インターネットもなく、調べる手段は文献しかありません。母校は古い蔵書が残っていることで有名でした。助かった反面、量が多すぎて情報選択とその整理に苦戦しました。文学部という、感性の学びととらえがちですが、論理思考のトレーニングの日々。このおかげで、社会人になり、民間企業で企画書の作成、大学院に進み数多くの論文を執筆、会社を設立して事業計画書を作成など、多様な

「書く」というハードルを越えることができました。

バブル期初期の華やかな短大生活のお話を…と考えましたが、ありませんでした。他校との交流は地味なものばかり。私はいつも事務局・企画係でした。東大釣り部と駒場祭(文化祭)でタイ焼き屋。お客様は子供と中年の女性ばかり。東海大とのバードウォッチングは事務局の男子学生が素敵で期待しましたが、ボーイスカウトのボランティアも兼ねていたため、子どもたちがソロソロとついてきて、男女の出会いというにはほど遠いものでした。そのうちクラスメイトからは「何か、やってよ」が私に対する挨拶となりました。では…と、相模大野の居酒屋ガクさんで、担任の先生も交えたクラス会を企画。病欠1名のほか全員参加の大盛会となりました。

閑話休題。今、多くの高等教育が「資格取得」「即戦力」等実学に力を注いでいますが、私が受けた相模教育は、少し違い「考え方」「教養」に軸が置かれていました。国際的な活躍が求められ、高齢社会を生きなくてはならない今、この二つは重要な要素であり、継承したいです。

「相模女子大学短期大学部の教育を受けました」

皆様とともに胸を張って声に致したく、筆をおかせていただきます。

## ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」及び「創立125周年記念事業募金」を以下のとおり実施させていただいております。ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之 125周年募金委員会委員長 速水 俊裕

### 創立125周年記念事業募金

#### 募金内容

本学園は、2025年に創立125周年を迎えます。相模女子大学創立125周年記念事業は、「女性の活躍を支援し、地域とともに発展する「開かれた学園」へ」というコンセプトを掲げ、「学園キャンパス整備事業」「周年誌編集・学園アーカイブ室設置事業」「式典・広報事業」の三事業を実施する計画を進めております。皆様からいただきましたご支援は、この三事業による地域の活性化と本学園の更なる発展に有効に活用させていただきます。

### マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。用途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学短期大学部」「学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただきます。

- ① お振込（郵便局または銀行窓口）
- ② 郵送（現金書留）またはご持参
- ③ 自動振替での継続

詳細につきましては、大学ホームページ (<https://www.sagami-wu.ac.jp/>) をご覧いただくか、下記事務局までお問い合わせください。

#### ④ インターネットから申込の場合

クレジットカード決済となります。ホームページ上の入力フォームに必要事項を入力の上、ご送信ください。

#### お申込方法 (個人の場合)

- お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課  
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9173 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp
- その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先  
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916



マーガレット募金  
インターネット  
申込入力フォーム



創立125周年記念事業募金  
インターネット  
申込入力フォーム

125<sup>th</sup> Anniversary  
since 1900

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。

学校法人 相模女子大学